

報告事項 ウ

平成22年度全国学力・学習状況調査の結果（平成19年度と平成22年度の教科に関する比較から見える課題等）について

平成22年度全国学力・学習状況調査の結果（平成19年度と平成22年度の教科に関する比較から見える課題等）について、別紙のとおり報告します。

平成22年12月21日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成22年度全国学力・学習状況調査結果 第2次報告

1 平成19年度と平成22年度の教科に関する調査結果の比較から見える課題等

方法

- ① 平成19年度（小6 悉皆）、平成22年度（中3 抽出）と共に調査対象となった本県の現中学校3年生の調査結果を比較。
- ② 平成22年度の中学校調査の内、平成19年度の小学校調査と経年比較が可能な調査項目について、全国正答率との比較や本県の調査結果の経年推移等から分析し、課題となる点や指導改善のポイントを提示。

各表左の矢印は、差の変化を示す。

→ : ほぼ横ばい

↗ : 向上

↘ : 低下

(太い矢印はその差が明らかに大きいもの)

国語

平成19年度小学校6年時と平成22年度中学校3年時の調査結果の比較(全問題による)

施年・学年	問題	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A問題 (主として知識)	77.1	75.1	+2.0
H19・小6		84.4	81.7	+2.7
H22・中3	B問題 (主として活用)	67.1	65.3	+1.8
H19・小6		64.0	62.0	+2.0

考察

- ・ 正答率を全国と比較するといずれも上回っているものの、A問題、B問題ともに差が縮まっており、中学校で伸び悩んでいる傾向がうかがえる。

[問題]

平成22年度の中学校調査の内、平成19年度の小学校調査と経年比較が可能な調査について(公立学校)

【A問題】

① 説得力のある話し方を選ばせる問題

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A3一	65.5	58.9	+6.6
H19・小6	A7	61.9	55.7	+6.2

② 一文を二文に分けて書く問題

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A4二	45.8	41.4	+4.4
H19・小6	A5	62.0	57.8	+4.2

③案内文の空白を埋める問題

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A9二	65.5	60.9	+4.6
H19・小6	A8	87.6	85.3	+2.3

④論理の展開の仕方をとらえて、内容を理解する問題

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A8一	59.4	56.6	+2.8
H19・小6	A9	82.2	81.0	+1.2

考 察

- ・正答率を全国と比較するといずれも上回っている。さらに全国との差を平成19年時と比較してもプラス方向に広がっており、良好な状況である。
- ・本年度の本県の正答率に着目すると、いずれも70%以下であり、指導方法の改善等によるさらなる定着が求められる。

改善のポイント

- 授業中に自分の考えについて資料等を用いて論理的に表現をする機会を増やすとともに、他者とのコミュニケーションを意図的に図るなどの工夫が必要である。
- 読むことの指導においては、接続詞や指示語などに注意して論理の展開を的確に捉えさせることが大切である。

【B問題】

⑤トップ記事とコラムの書き方の特徴を選ぶ問題

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	B1二	49.5	48.9	+0.6
H19・小6	B4一	62.0	62.8	-0.8

⑥記事に書かれている内容を基に、自分の感想を書く問題

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	B1三	56.6	51.6	+5.0
H19・小6	B2三(2)	76.0	75.2	+0.8

考 察

- ・正答率を全国と比較すると、いずれも上回っている。さらに全国との差を平成19年時と比較すると⑤については全国より下回っていたものがわずかではあるが上回り、⑥についてはプラス方向に広がっているため良好な状況である。
- ・本年度の本県の正答率に着目すると、いずれも60%以下であり、指導方法の改善等によるさらなる定着が求められる。

改善のポイント

- 読むことの指導に当たっては、書き手が文章を書こうとした目的と、それに応じた表現の仕方に着目させるため、様々な文種に触れさせたり、表現の違いについて考えさせたりすることなどが大切である。
- 自分の感想を具体的に書く活動は、国語だけでなく、全教科・全領域で取り組むなど、学習する機会を増やすことが望ましい。

[質問紙調査]

国語に関係して平成19年度小学校6年時と平成22年度中学校3年時に共通している質問項目と結果（公立学校）

質問事項	H19 小6	H22 中3	差 (%)
	肯定的な回答(%)		
①国語の勉強は好きですか	59.5	56.9	-2.6
②国語の勉強は大切だと思いますか	91.8	90.4	-1.4
③国語の授業内容はよく分かりますか	80.7	69.7	-11.0
④読書は好きですか	73.9	73.5	-0.4
⑤国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.2	82.7	-6.5
⑥国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	57.6	44.9	-12.7

考 察

- ・「国語が好き」の肯定率が、2度の調査とも60%を下回っており、関心・意欲の向上が見られない。(①より)
- ・「授業内容の理解」の肯定率が11%減である。(③より)
- ・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」の肯定率が12.7%減かつ50%を下回っている。(⑥より)

改善のポイント

- 他教科で活用できるような言語活動を充実させた授業を増やすなど、指導方法の改善が求められる。
- 教科書だけでなく、例えば、身近な新聞記事やニュースを教材にするなどして児童生徒の国語の授業に対する興味・関心を高めることが必要である。

算 数 ・ 数 学

平成19年度小学校6年時と平成22年度中学時3年時の調査結果の比較(全問題による)

施年・学年	問題	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A問題 (主として知識)	66.1	64.6	+1.5
H19・小6		84.2	82.1	+2.1
H22・中3	B問題 (主として活用)	44.5	43.3	+1.2
H19・小6		65.0	63.6	+1.4

考 察

- ・ 正答率を全国と比較するといずれも上回っているものの、A問題、B問題とも全国との差が縮まっており、中学校で伸び悩んでいる実態がうかがえる。
- ・ 中3のB問題については、全国平均を上回るものの正答率は50%を下回っており、習得された知識が十分に活用されず、言語活動に関わる数学的活動の部分に問題点があることがうかがえる。

[問 題]

平成22年度の中学校調査の内、平成19年度の小学校調査と経年比較が可能な調査について(公立学校)

①【図形分野】 円の面積、円柱の体積を求める

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A5(4)	35.7	39.9	-4.2
H19・小6	A5(3)	75.4	73.0	+2.4

考 察

- ・ 円柱の体積を求める場面(中3)でも、底面の円の面積を求める際に円周の長さを求める公式と混同していることが考えられ、小6のつまずきが解消されていない。

改善のポイント

○授業では、観察・操作や実験などの活動をとおして円の周と面積の求め方の違いについて再確認するとともに、空間図形についての理解を深められるようにすることが大切である。

②【数量関係】 長さが決まっているひもでつくる長方形のたてと横の長さ

実施年・学年	問題番号	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	差 (%)
H22・中3	A11(3)	25.5	22.9	+2.6
H19・小6	A7(2)	81.6	75.3	+6.3

考 察

- ・具体的な事象における2つの数量の関係において、それらの変化や対応を調べる方法や、具体的な事象を一次関数の式に表すことができていない。
- ・無回答の割合も30.1%とA問題の中で最も高い。[H22・中3 問題番号A11(3)]

改善のポイント

○身の回りの事象の中にはいろいろな関数関係があることを理解し、その関数関係を見だし、表現し、考察する能力を伸ばすような授業展開を行うとともに、3年間を見通した指導を心がける必要がある。

[質問紙調査]

数学に関して平成19年度小学校6年生と平成22年度中学校3年生に共通している質問項目と結果（公立中学校）

質 問 事 項	H19 小6	H22 中3	差
	肯定的な回答 (%)		(%)
①数学(算数)の勉強は好きですか。	64.9	49.9	-15.0
②数学(算数)の勉強は大切だとおもいますか。	93.2	80.6	-12.6
③数学(算数)の授業の内容はよく分かりますか。	78.4	59.3	-19.1
④問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	75.7	65.0	-10.7
⑤数学(算数)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	59.3	31.4	-27.9
⑥数学(算数)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	92.0	69.1	-22.9

考 察

- ・「数学が好き」と答えた割合が小6では全体の2/3だが、中3で50%を下回っており、中学校における興味・関心・意欲の低下がみられる。(①より)
- ・「授業内容の理解」の肯定的な回答が中3で60%を下回っている。(③より)
- ・「学習したことが普段の生活の中で活用できないか考えますか」、「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」は、質問項目の中でも肯定率の減少が著しく、授業での数学的活動が十分ではない等、学んだ知識を活用しようとするにつなげていない状況がうかがえる。(⑤⑥より)

改善のポイント

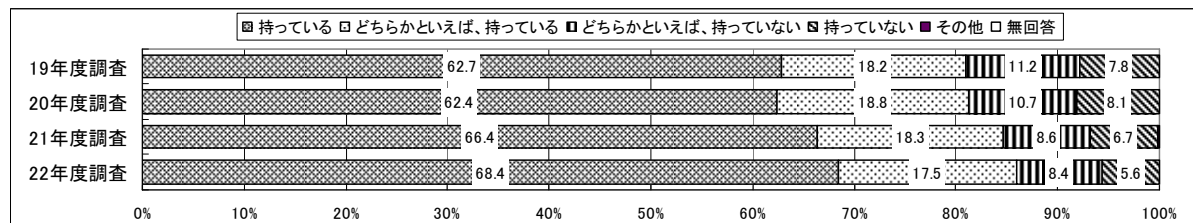
○言葉や数・式・図などを使って説明する「算数・数学的活動」を重視し、各学年で「反復(スパイラル)指導」を行うことで、基礎的・基本的事項を確実に定着させ、学習内容のつながりを子どもたちに感じさせるとともに、知的好奇心・関心を満たすような授業展開の工夫が求められる。

2 平成19年度から平成22年度の児童生徒質問紙回答結果から

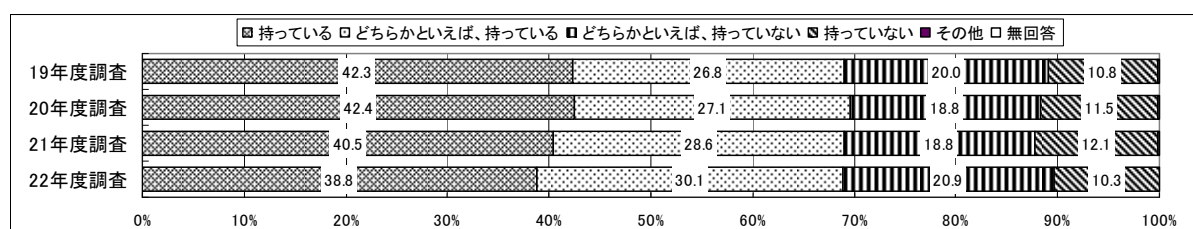
県教育委員会では『心とからだいきいきキャンペーン』と『勉強がんばろうキャンペーン』を展開しており、生活習慣や学習習慣の定着を柱として県民運動を展開中。

キャンペーンを通して、子どもたちが「めざす夢や目標」に向かって主体的に学ぼうとする雰囲気づくりを県民全体で進めていきたいと考えている。

【小学校】 将来の夢や目標を持っていますか



【中学校】 将来の夢や目標を持っていますか



以下に示す調査項目は、文部科学省の分析で学力との相関が認められているもので、『心とからだいきいきキャンペーン』、『勉強がんばろうキャンペーン』の推進内容とも大きく関わりのあるものを取り上げている。

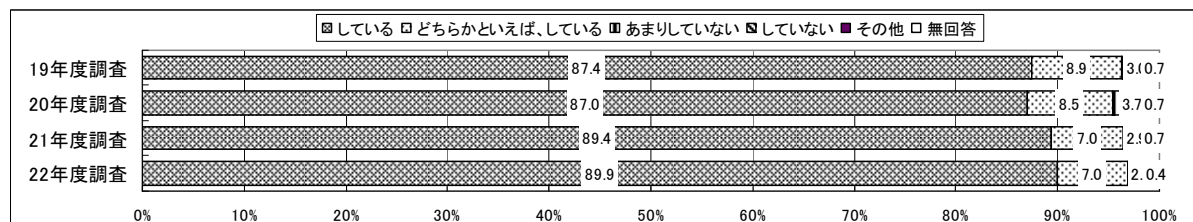
生活習慣等

考察

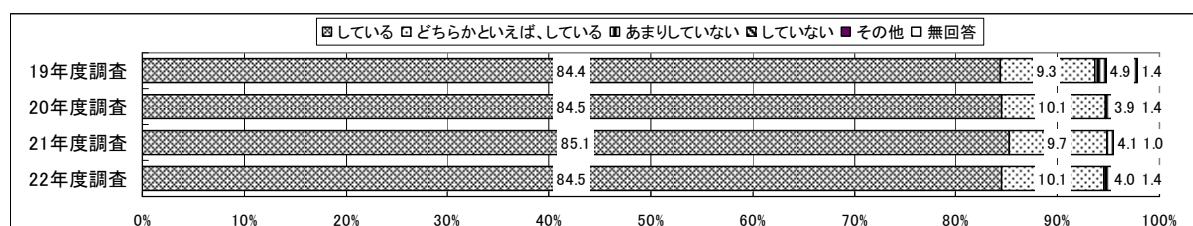
- ・朝食や規則正しい起床・就寝の習慣、読書時間は、学力と相関の高い項目であるが、この4年間で小、中学校ともに改善傾向にある。
- ・生活リズムは学力の基盤としても重要であり、今後も家庭と連携しながら、よりよい生活習慣を身につけることが大切である。

■朝食の習慣■

【小学校】 朝食を毎日食べていますか

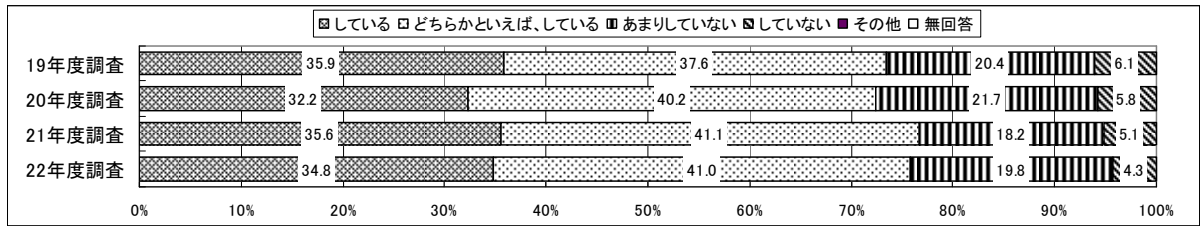


【中学校】 朝食を毎日食べていますか

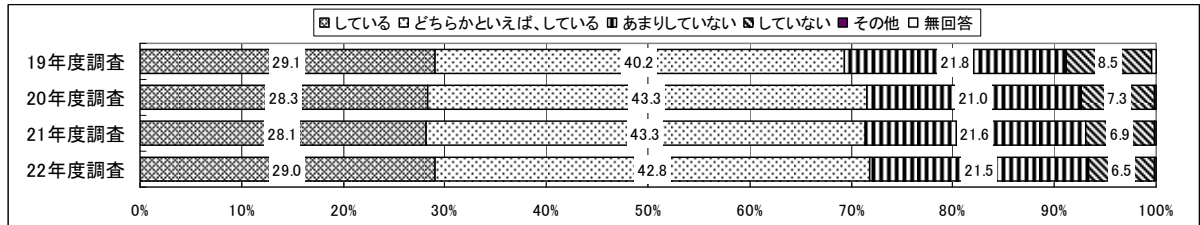


■就寝・起床時刻■

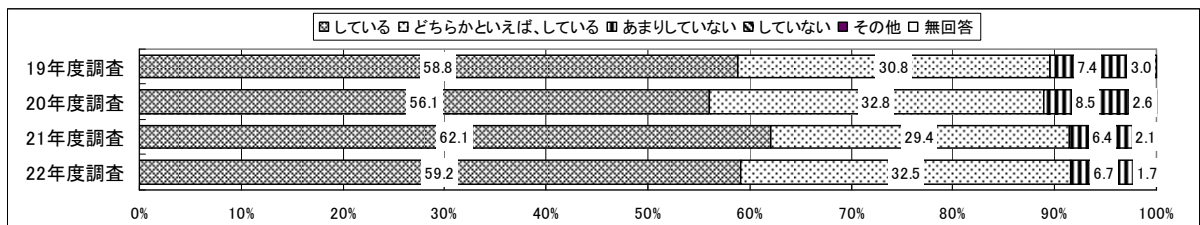
【小学校】 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



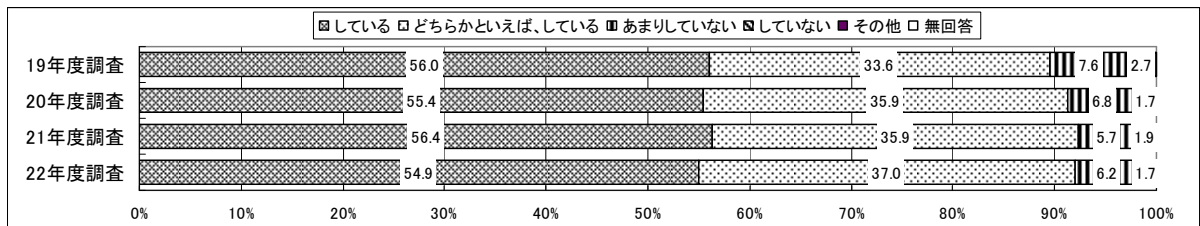
【中学校】 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



【小学校】 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

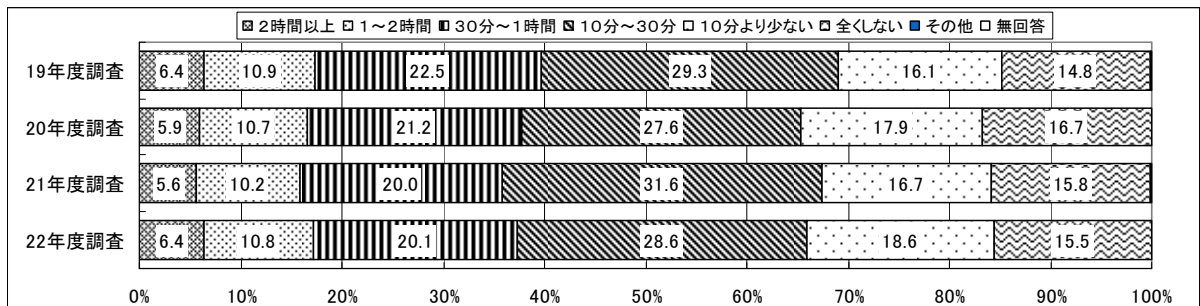


【中学校】 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

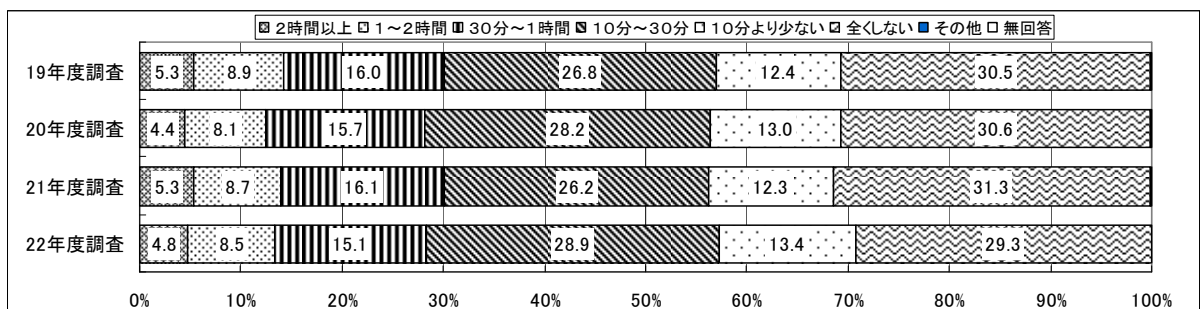


■読書の時間■

【小学校】 学校や図書館で、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書しますか



【中学校】 学校や図書館で、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書しますか



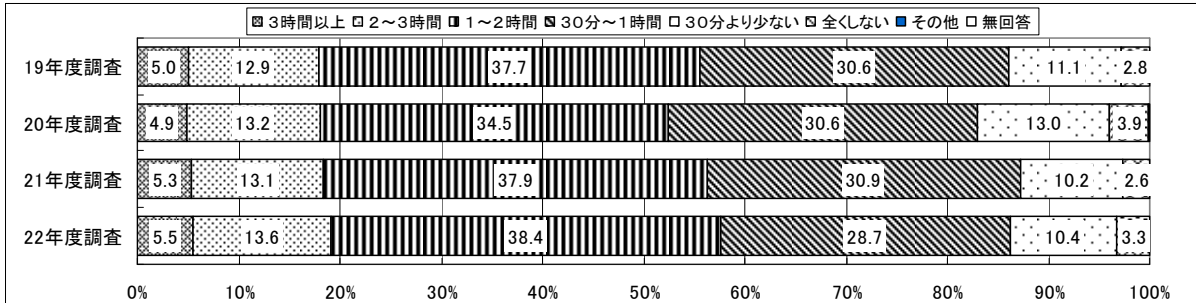
学習習慣等

考察

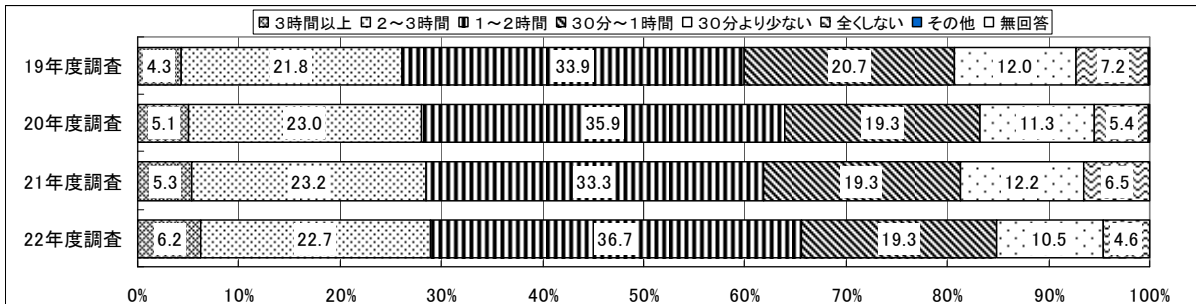
- ・家庭での学習時間や計画的、継続的な学習習慣などは、学力と相関の高い項目であり、4年間で、若干の改善傾向がうかがえる。
- ・家庭学習については、時間の確保だけでなく、内容や取り組み方についても一層の見直しが必要である。

■学習時間■

【小学校】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか

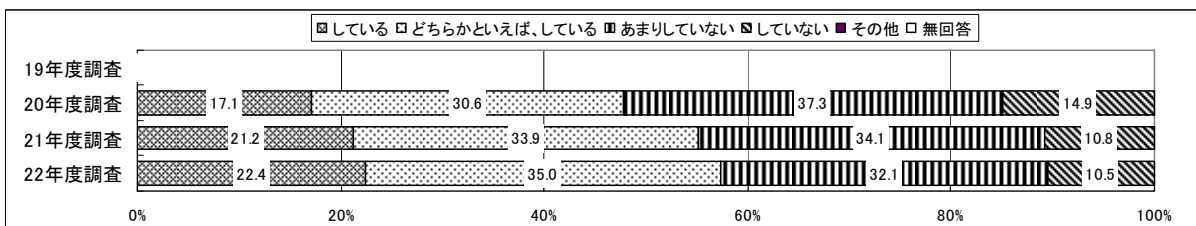


【中学校】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか

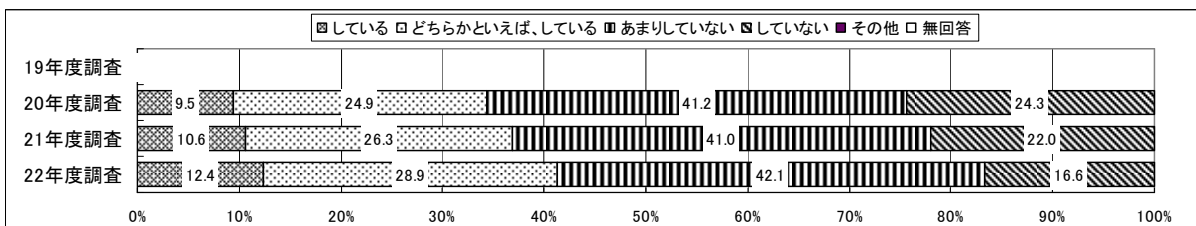


■計画を立てて学ぶ態度■

【小学校】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

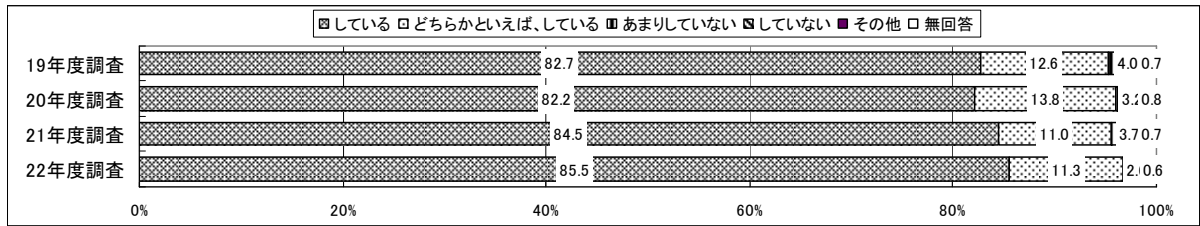


【中学校】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

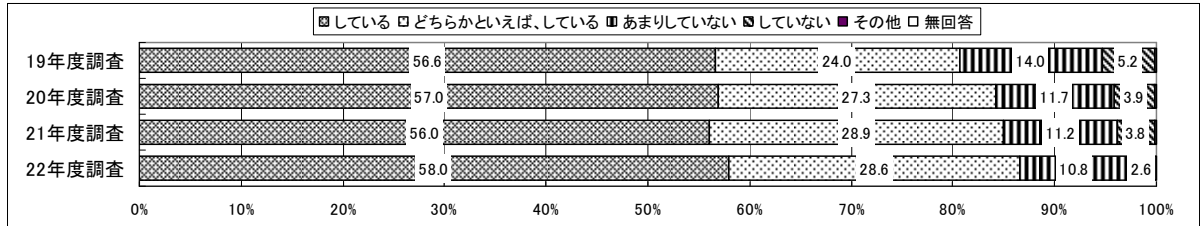


■家庭学習(宿題)■

【小学校】家で学校の宿題をしていますか



【中学校】家で学校の宿題をしていますか



3 学校質問紙調査結果から見える成果と課題

平成22年度の学校質問紙調査における肯定的回答の本県結果と全国平均との比較から、顕著なものを示すとともに、経年データがある項目については本県の回答結果推移を提示。

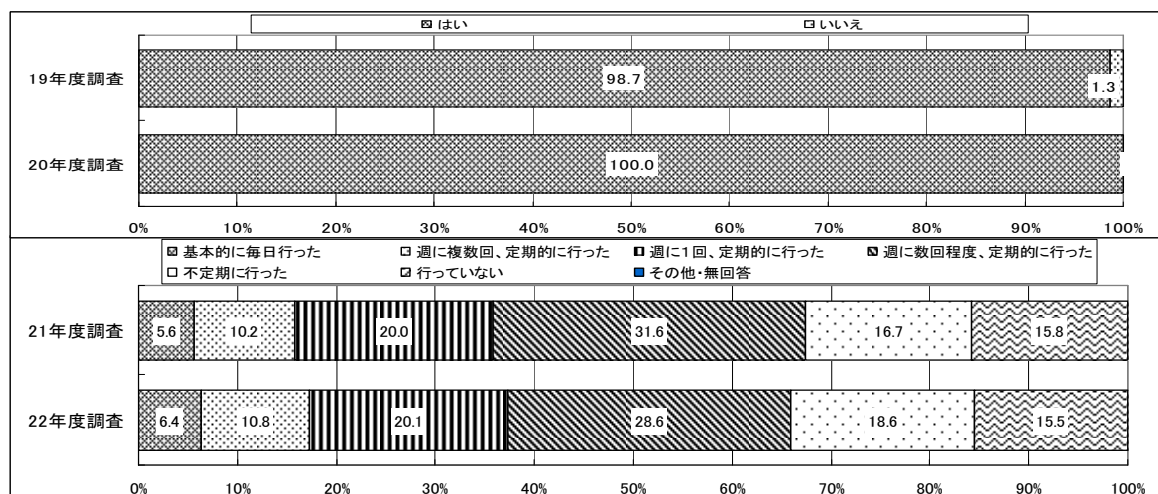
【朝 読 書】

■平成22年度の調査結果より

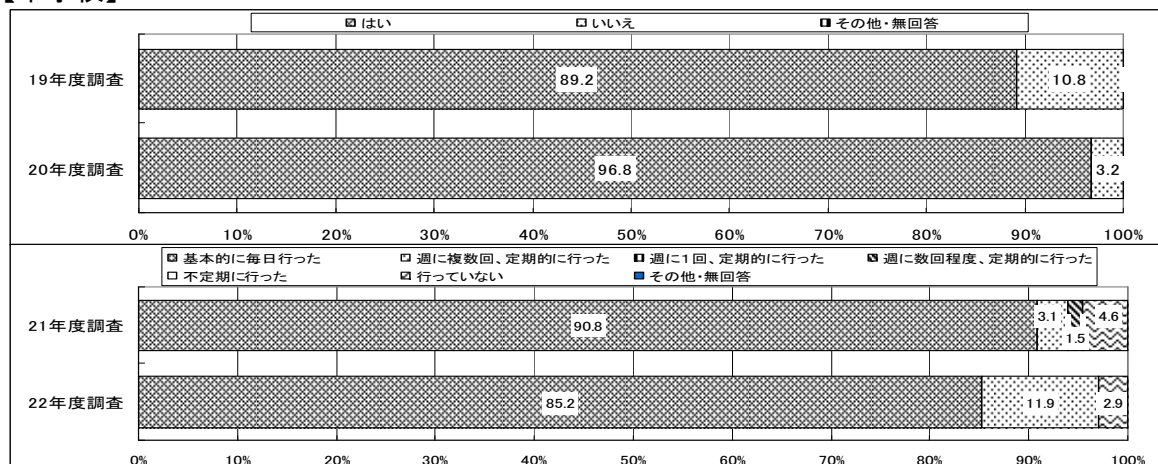
質問事項		鳥取県	全国	差
「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか (週に1回以上実施)	小	100.0	89.4	+10.6
	中	97.1	78.7	+18.4

■経年推移(平成19年～平成22年)

【小学校】



【中学校】



考 察

- ・平成22年度の調査結果では、小、中学校ともほぼ全ての学校が実施し、全国平均を大きく上回っている。
- ・経年推移から、ほぼ全ての小、中学校で従来から取り組まれてきたことがわかる。

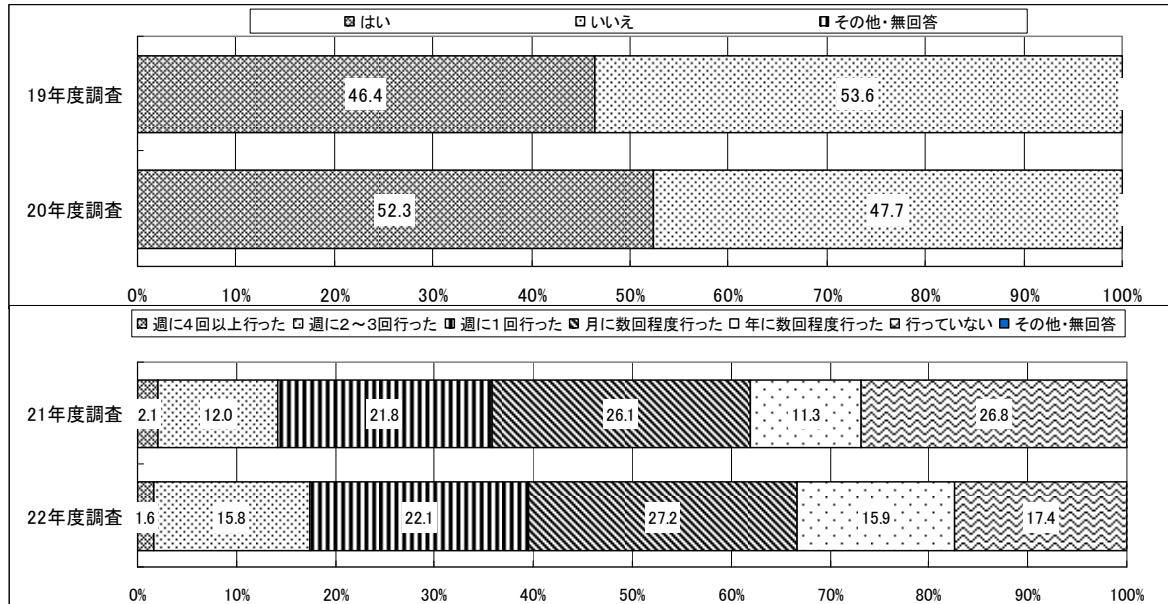
【放課後学習サポート】

■平成22年度の調査結果より

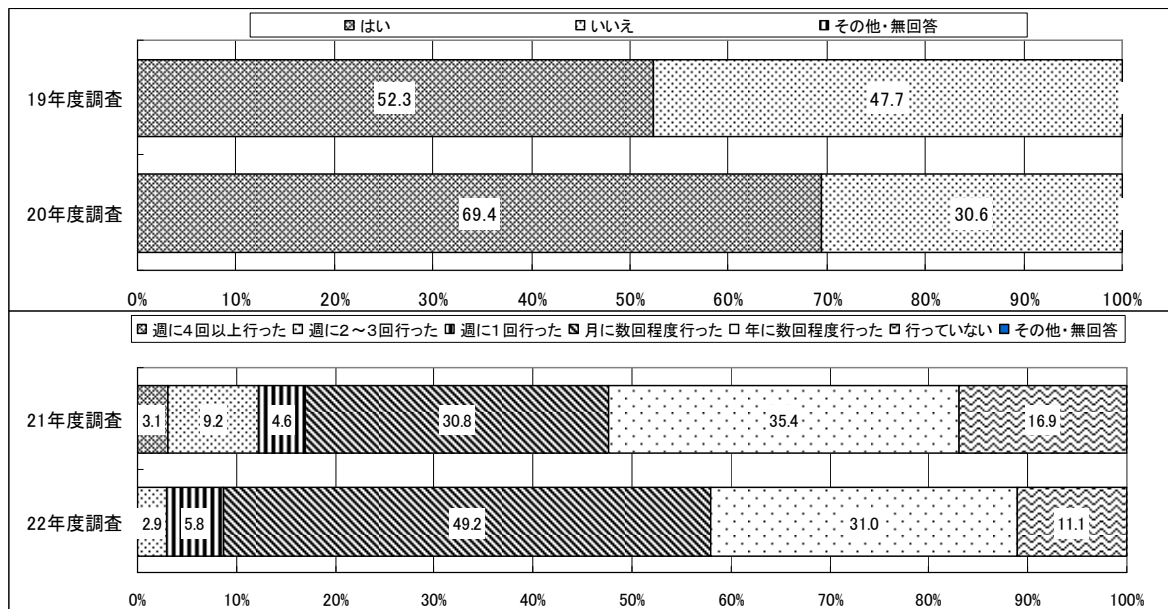
質問事項		鳥取県	全国	差
放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか (週に1回以上実施)	小	39.5	26.8	+12.7
	中	8.7	22.5	-13.8

■経年推移(平成19年～平成22年)

【小学校】



【中学校】



考 察

- ・平成22年度の調査結果では、小学校は平均を大きく上回っているが、中学校では大きく下回っている。
- ・経年推移から、小、中学校とも年々実施率の向上がうかがえる。

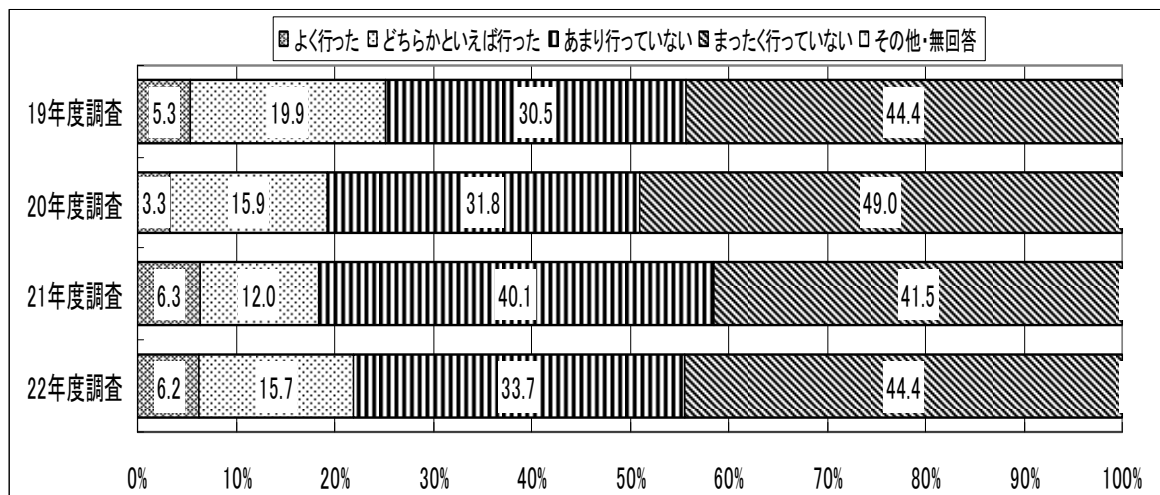
【ボランティアによる授業サポート】

■平成22年度の調査結果より

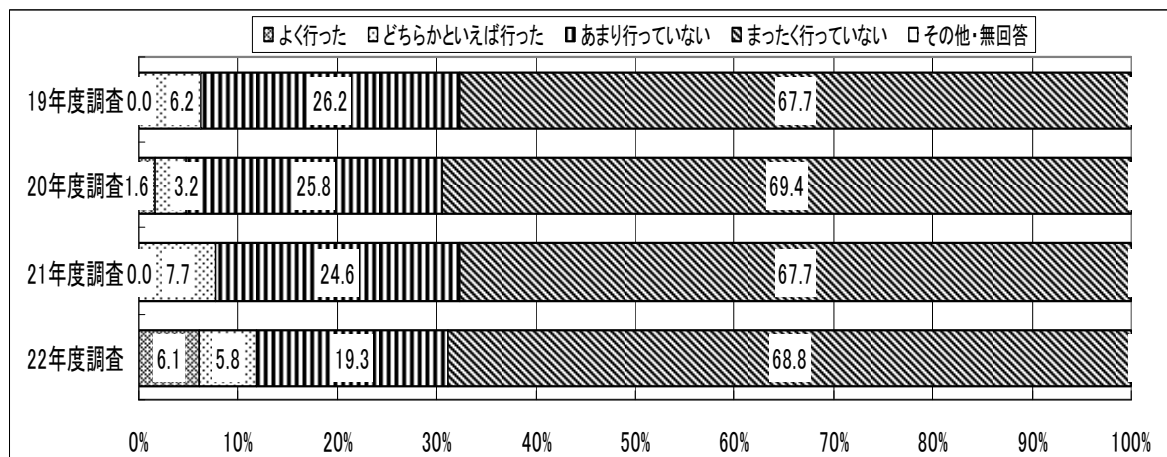
質問事項		鳥取県	全国	差
ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	小	21.9	38.5	-16.6
	中	11.9	18.8	-6.9

■経年推移(平成19年～平成22年)

【小学校】



【中学校】



考 察

- ・平成22年度の調査結果では、小学校で全国平均を大きく下回っている。
- ・経年推移から、中学校では若干増加しているが、小、中学校ともに低い割合である。

【全国学力・学習状況調査の公表・活用】

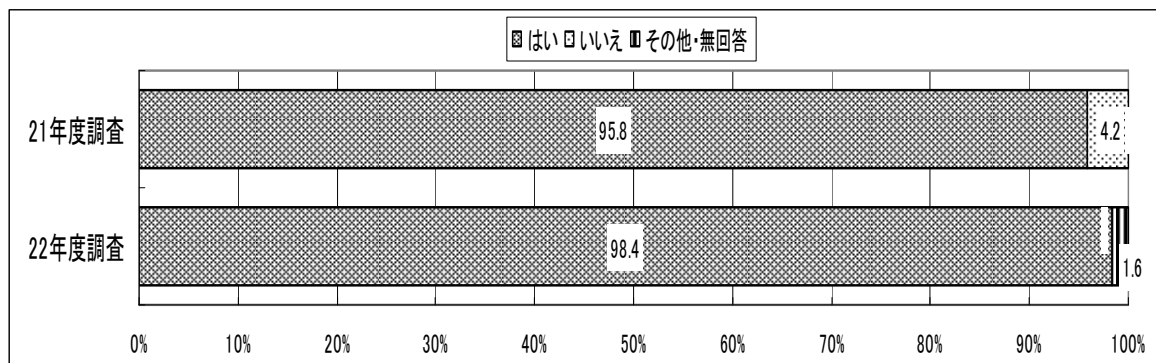
■平成22年度の調査結果より

質問事項		鳥取県	全国	差
平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか	小	98.4	74.6	+23.8
	中	100.0	71.3	+28.7
平成21年度調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか	小	90.7	74.2	+16.5
	中	83.1	66.8	+16.3

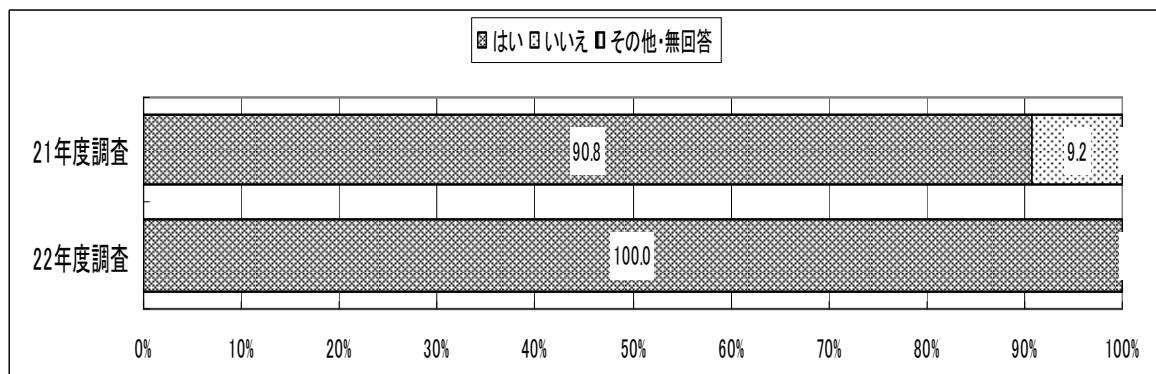
■経年推移(平成19年～平成22年)

平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。

【小学校】



【中学校】



考 察

- ・平成22年度の調査結果では、小、中学校ともに全国平均を大きく上回り、調査結果を公表・活用し、地域・家庭とともに学力向上に取り組んでいることがうかがえる。
- ・経年推移から、平成22年度は、ほぼ全ての小、中学校で取り組まれている状況がうかがえる。

【家庭学習】

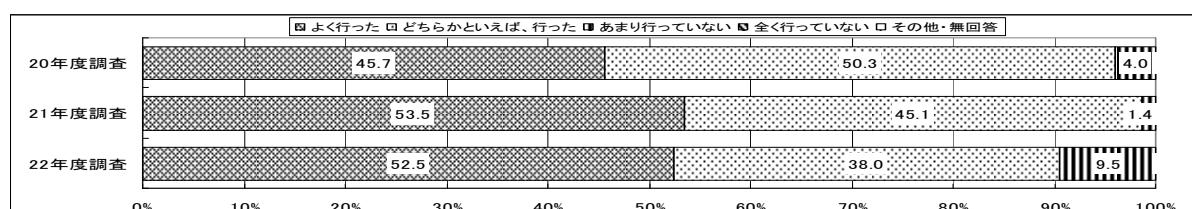
■平成22年度の調査結果より

質問事項の概要		鳥取県	全国	差
国語の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(行っていますか)	小	90.5	94.2	-3.7
	中	40.4	70.6	-30.2
算数(数学)の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(行っていますか)	小	93.7	93.7	±0.0
	中	51.8	71.4	-20.6

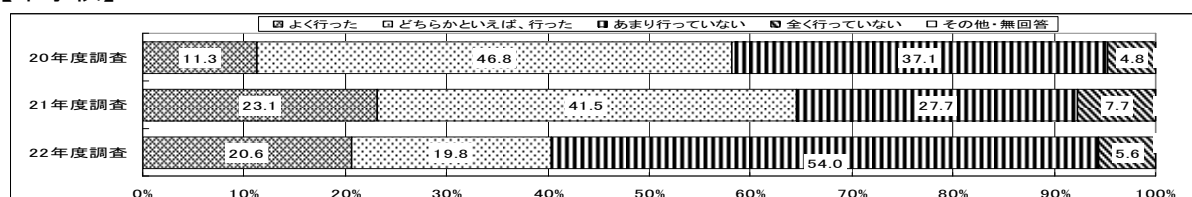
■経年推移(平成20年～平成22年)

国語の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(行っていますか)

【小学校】

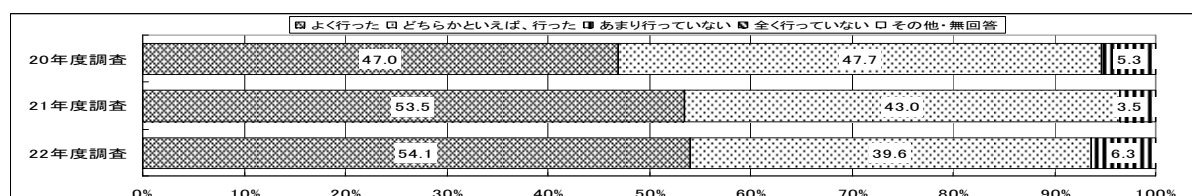


【中学校】

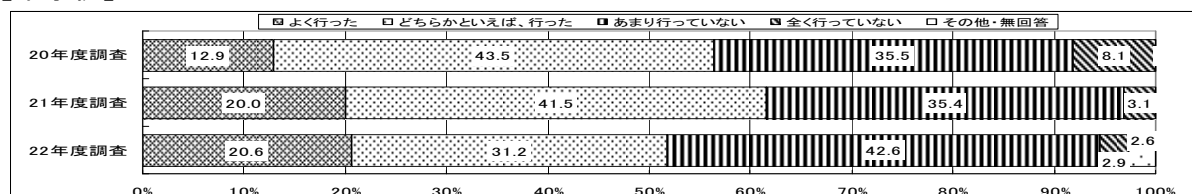


算数(数学)の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(行っていますか)

【小学校】



【中学校】



考 察

- ・平成22年度の調査結果では、中学校で全国平均を大きく下回っている。
- ・経年推移から、ほとんどの小学校では高い割合で保護者に対して家庭学習を促しているが、中学校ではきわめて低い。
- ・特に中学校で、家庭学習を促す働きかけについて、保護者との連携が不足していることがうかがえる。